

令和2年度

授業改善推進プラン



立川市立若葉台小学校
令和2年11月

立川市立若葉台小学校 授業改善推進プラン

今年度は新型コロナウイルスの影響で「全国学力調査（6年）」「都 児童・生徒の学力向上を図るための調査（5年）」は実施されませんでしたので、東京ベーシック・ドリルの結果とこれまでの授業、昨年の学校評価を基に、以下のような内容で、授業改善推進プランを見直しました。

- I はじめに ～1 本校の目指す学力
- II 児童の実態 ～1 学力の状況 2 意識調査結果より
- III 授業改善の視点 ～1 授業改善のポイント「若葉台スタンダード」
 2 各学年・各教科の授業改善の重点
- IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～

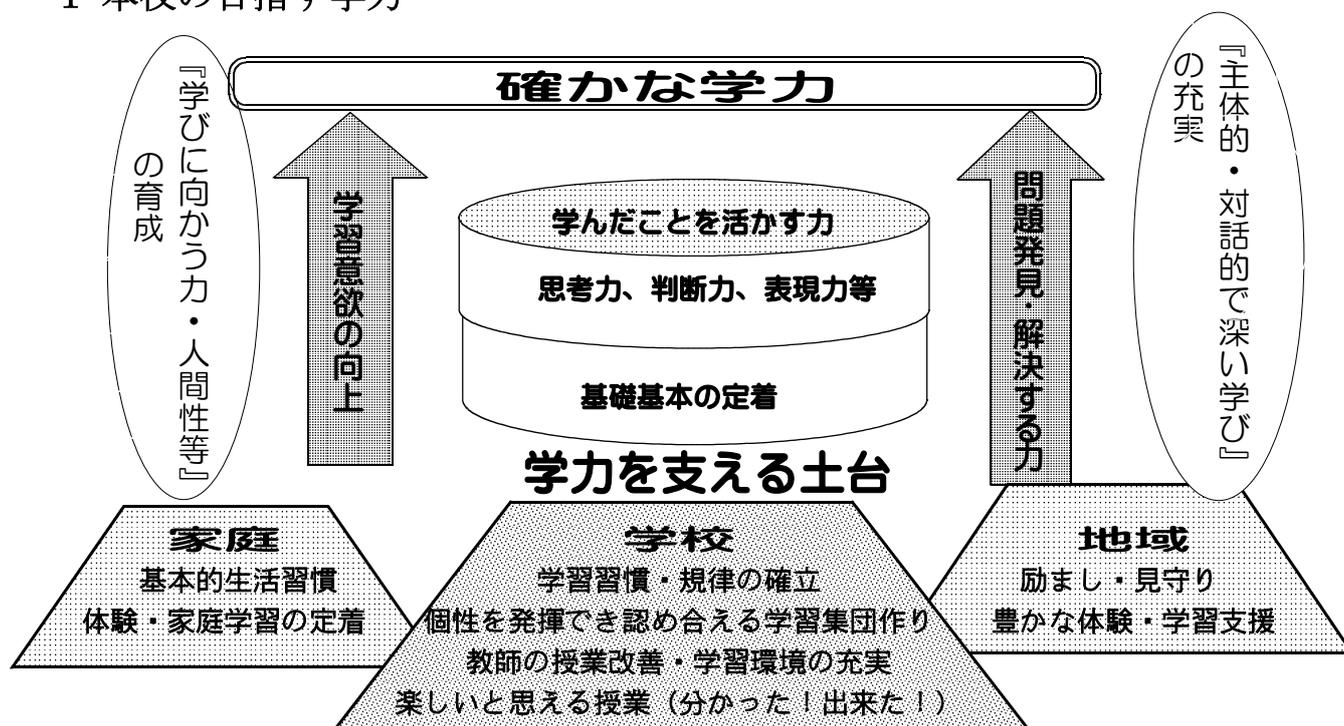
I はじめに

新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、『何のために学ぶのか』という学習の意義を共有しながら、すべての教科を『知識及び技能』『思考力、判断力、表現力等』『学びに向かう力、人間性等』という三つの柱で整理し、授業改善の活性化が求められています。

平成30年度に若葉町の二つの小学校が統合し、立川第九中学校校区は、一小学校一中学校の地区となりました。その特色を生かし、小・中が、特別活動や行事ばかりでなく、日頃から積極的に教科や領域での連携をすすめて学習内容の系統性等の共通理解を図り、学力向上を目指していきます。

その目指す学力を下記のように構造化して考え、このプランに従い、日々の授業改善に取り組みます。学力向上に向けた授業改善の視点については、III 授業改善の視点 をご参照ください。

1 本校の目指す学力



問題解決型の学習は、児童の学習意欲を高め、思考力、判断力、表現力等の力が伸びていきます。そうした学習を可能にするには、一人一人の確かな基礎基本の定着と、友達と考えを伝え合い深めていける人間関係という土台が必要です。授業改善推進プランを基に、日々の授業を工夫し、児童の基礎基本の定着を図り、協働的な学習活動を通して人間関係を育て、確かな学力を付けていくことを目指していきたいと考えます。

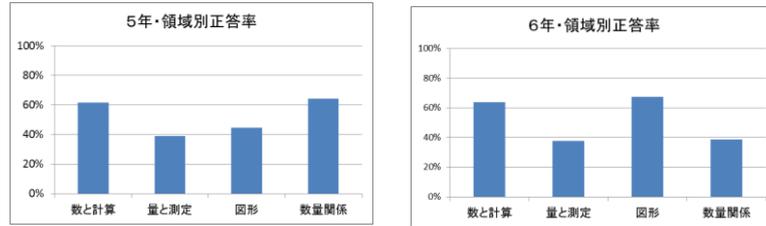
また、学力を支える土台作りとして、ご家庭や地域の力が大切です。『IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～』を参考にいただき、ご協力をよろしくお願いします。

Ⅱ 児童の実態

1 学力の状況

(1)算数（東京ベーシック・ドリルの結果・授業の様子から）

・東京ベーシック・ドリル診断テストの結果（高学年）をみると、どちらの学年も旧領域「量と測定」の正答率が低い傾向にある。



・東京ベーシック・ドリル診断テストでは、単位のミスや筆算での繰り下がり・九九ミスなども目立っている。また、筆算をそろえて書けない児童や消してしまう児童も多いため、見直しに活用するなど、筆算の大切さを指導していく必要がある。

・単元ごとのワークテストでは、どの単元も平均正答率は80～90%で推移している。学習したことは着実に身に付けているものの、概念的な理解にまで至っていないため、学習時からの時間の経過とともに正答率が下がってしまう傾向にある。問題の解決法だけでなく、概念化を図り、その定着するための指導の工夫が必要である。

・自分の考えを図や絵を使って、分かりやすく説明しようとする姿が見られるようになってきた。複数の解法を考えるなど、既習事項を活かして多面的に考える児童が、全体に良い影響を与えている。

(2)国語・社会・理科（授業の様子・ワークテストの結果より）

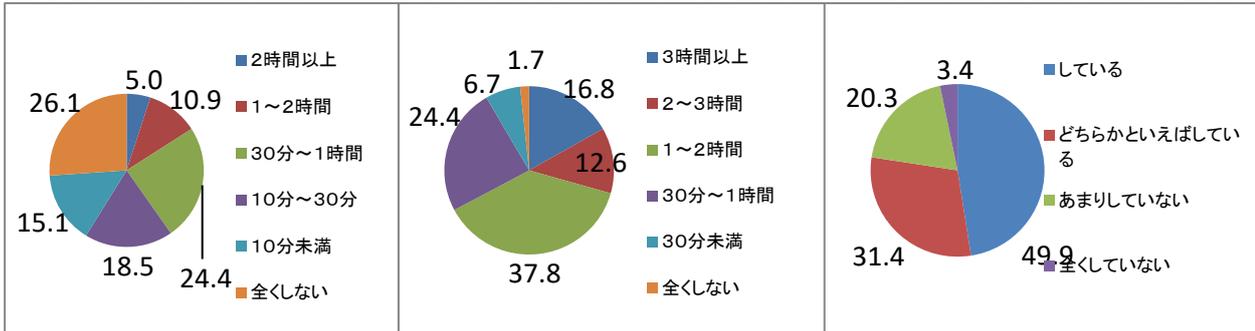
【国語】	<ul style="list-style-type: none"> ・主語述語の呼応や、修飾語被修飾語の関係など文法の理解が十分でない。 ・インタビューの質問内容を考え、まとめたり、手紙の形式を理解して書いたり、新聞作成の効果的な紙面の工夫をしたり、生活の様々な場面での活用に、個人差が大きい。 ・読解では、目的に応じて内容を的確に掴んだり、長い文章でも文章全体を概観して読み取る力に課題が見られる。
【社会】	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資料の読み取りの技能(地図・土地利用・グラフ・関係図・文章資料)は、基本的な読み取りはできるが、複数の資料を比較したり関連付けたりして、判断し結論を導き出すような問題への対応に慣れていない面が見られる。
【理科】	<ul style="list-style-type: none"> ・温度計等様々な実験器具の使い方の注意点を、忘れがちである。 ・実験や観察の仕方をよく聞き、まじめに取り組むが、何を明らかにするための実験なのか目的の理解が不十分な様子が見られる。 ・実験や観察などの結果を比較したり関連付けたりして結論を導き出すことに慣れていない面がある。

2 意識調査より ～全国学力調査(6年)の意識調査より～

読書を毎日どれくらいしますか

学校以外で、毎日どのくらい学習しますか

家の人と、学校や社会の話をしますか



約6割の児童が学校の授業時間以外の時間に30分以上読書をしている。
一方で、全くしない児童の数も多いため、読書の習慣が身に付くきっかけ作りを進めていく必要がある。そして「読むこと」の日常化を図っていく。また、SNSやオンラインゲームの普及との関連も考慮し、家庭での過ごし方も調べていく必要がある。

9割以上の児童が毎日30分以上学校以外で学習していることが分かる。家庭での声かけの成果だと考える。さらに学習効果を高めるため、学習するテーマ例を提示し、その中から自分で内容を選んで取り組ませる等の工夫をし、自分で内容を考えて学習することを促していきたい。
一方で、30分未満の児童への働きかけを家庭と連携して行っていくことが必要で、中学校進学に向けて学習習慣の定着を図ってほしい。

約8割が家庭で話ができている。「している」という児童は、家庭での学習習慣もよく身に付いている。学習への意欲の要因として、様々な話を聞いて受け止めてくれる安心できる家庭の存在が大きいことが考えられ、また、社会事象の話をすることで、社会に関心をもてるようになるので、家庭へも呼びかけていきたい。

Ⅲ 授業改善の視点 1 若葉台スタンダード

指導計画

- ・「ねらい」「指導方法・内容」の位置付け
- ・児童の発言・つぶやきを指導計画に生かす

学習規律

- ・姿勢（びん・ぴた・ぐう せ・め・て）の徹底
- ・「話す・聞く」のルール（はい、立つ、です。）の確立
- ・授業開始前の、机上の学習用具の準備の徹底
- ・授業の始まりと終わりの時刻の遵守
- ・授業の始まりと終わりの挨拶の徹底

授業

導入

- ・「題材名」「学習のめあて」の提示により、何を学習するかが分かる
- ・「学習問題」の提示・「予想〈+理由〉」をもたせる（解決の見通し）
- ・既習の内容や生活体験に基づく導入（解決の見通しとヒント）

展開

- ・考えを引き出す意図的な発問（多様な考えを引き出す発問）
- ・自分の考えをもつ・書く・伝える活動の充実
- ・場の設定の工夫（ペア・グループ・全体）による学び合い
- ・話し合いの視点の明確化
- ・丁寧な児童観察（表情・つぶやき）を、授業の展開に生かす
- ・構造的な板書
- ・I C T の活用（効果的な活用へ）

まとめ

- ・自己評価の場の設定
- ・めあてに対する個々の到達度の把握

定着

- ・習得した知識及び技能を補充・活用する課題を出す

Ⅲ 授業改善の視点 2 各学年・各教科の授業改善の重点

1年

教科	めざす児童の力	指導のポイント
国語	文字を正しく読み書きし、語句を正しく使う。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく読んだり書いたりする活動をくり返し行うことで、音声と文字を結び付けさせる。 ・話型や文型を使って、音声や文字で表現させる体験を繰り返し積ませる。 ・主述の照応した文を書けるように、くり返し文を書く機会を設ける。 ・必要な情報を取り出すために、指示語・接続語・キーワードに着目させ要点をつかませながら読み取らせる。 ・考えや気持ちを表す豊かで適切な言葉を使えるようにするため、読書活動の推進を図る。
	知らせたいことをみんなに聞こえる声で話したり、大事なことを落とさないように聞いたりする。	
	自分の考えや事柄の順序を明確にし、簡単な組み立てを考えながら書く。	
	事柄の順序などをとらえたり、想像を広げたりしながら文章を読む。	
算数	数量や図形などについて理解し、計算したり絵や図などに表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なキーワード線を引いたり、数字に○を付けたりして、問題を丁寧に読ませる。 ・半具体物で繰り上がりや繰り下がりの意味を理解させ、そのやり方を身に付けさせる。 ・式から問題文を作る活動を多く取り入れる。
	問題について、見通しをもって考え表現する。	
	数量や図形に親しみ、算数のよさや楽しさを感じながら学ぼうとする。	
生活	自分と身近な人々、社会、自然との関わりに気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の継続的な観察や見学、交流活動、グループ活動等の多様な体験を通して、意欲を喚起する。 ・観察や体験活動を通し、気付いたことや感じたことを、多様な方法で表現する活動を多く取り入れる。 ・いろいろな人々と関わり、その人の考えや活動のよさに気付かせ伝え合う場面を取り入れる。
	身近な人々や社会、自然と、自分の生活とを関連させて考え表現する。	
	身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、意欲的に身近な生活と関わろうとする。	

2年

国語	言葉の使い方や文の組み立てを理解し、文字を正しく読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> ・細部まで確認したり、間違いやすい部分に着目させたりして正確に表記できるようにする。また、日記指導等で習った漢字を使う習慣付けを図る。 ・説明やスピーチ等の際は、聞く側に聞く視点を明確にもたせて聞かせ、質問や感想などの交流活動を取り入れる。 ・文章の記述や資料の事実を基に自分の考えを書かせる。 ・必要な情報を取り出すために、指示語・接続語・キーワードに着目させ要点をつかませながら読み取らせる。 ・考えや気持ちを表すために豊かで適切な言葉を使えるようにするため、読書活動の推進と、辞書の活用を図る。
	相手に伝わるように話したり、大事なことを落とさないように聞いたりする。	
	自分の考えや事柄の順序を明確にし、簡単な組み立てを考えながら書く。	
	事柄の順序や場面の様子などをとらえたり、想像を広げたりしながら文章を読む。	
算数	数量や図形などについて理解し、計算したり測定や作図をしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なキーワード線を引いたり、数字に○を付けたりして、問題を丁寧に読ませる。 ・具体物で繰り上がりや繰り下がりの意味を理解させ、そのやり方を身に付けさせる。 ・式から問題文を作る活動を多く取り入れる。
	算数の問題について、見通しをもって筋道を立てて考え、表現する。	
	数量や図形の学習にすすんで取り組み、生活や学習に生かそうとする。	
生活	自分と身近な人々、社会、自然との関わりに気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の継続的な観察や見学、交流活動、グループ活動等の多様な体験を通して、意欲を喚起する。 ・観察や体験活動を通し、気付いたことや感じたことを、多様な方法で表現する活動を多く取り入れる。 ・いろいろな人々と関わり、その人の考えや活動のよさに気付かせ伝え合う場面を取り入れる。
	身近な人々や社会、自然と、自分の生活とを関連させて考え、表現する。	
	身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、意欲的に身近な生活と関わろうとする。	

1, 2年共通

音楽	曲の感じをつかんで聴いたり、歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで歌ったり演奏したりできるよう、体を動かす活動や創作活動を取り入れる。 ・発表した後に感想を書いたり伝え合ったりする活動を取り入れる。
	音楽活動の中で、自分の考えや思いを表現したり、音楽を楽しんで聴いたりする。	
	音楽に親しみ、すすんで表現したり、鑑賞したりしようとする。	
図画工作	形や色、表し方の面白さに気付き、材料や用具を適切に使い、工夫してつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やのり、はさみの扱い方、描画材の使い方など、スモールステップで具体的に提示し、安全に使えるようにする。 ・作品の鑑賞の視点を提示し、作品の良さに気付くことができるようにする。
	思いをふくらませながら、表し方を広げる。	
	つくりだす喜びを味わいながら、自分や友達の作品のよさに気付く。	
体育	楽しく運動遊びをするための行い方を知り、基本的な動きを身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、運動の基礎感覚作りを行う。また、技に関連した易しい動きを段階的に取り組ませる。 ・学習を振り返り、より上手になるための方法やより楽しくするためのルールや人との関わり方を話し合う。 ・理解しやすい教材を選び、すすんで取り組めるようにする。よい行動を賞賛してその良さに気付かせる。
	運動遊びについて行い方を工夫したり、考えたことを伝えたりする。	
	きまりを守り、友達と協力し合い、安全に気を付けながらすすんで運動遊びをしようとする。	

各学年・各教科の授業改善の重点

3年

教科	めざす児童の力	指導のポイント 例
国語	言葉の使い方や語と語の役割・関係を理解し、文章を正しく読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとその理由を適切に表現する方法を知らせる。 叙述にある人物の言動をもとに、気持ちを読みとる方法を確認する。 説明文がどのような構成で表現されているか理解させる。 新出漢字を使った言葉は意味も合わせて理解させる。
	話の中心を明確にして話したり、必要なことを落とさないように聞いたりする。	
	自分の考えや伝えたいことを明確にし、文章の構成を考えながら書く。	
	考えとそれを支える理由や事例との関係、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に読む。	
社会	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> グラフや統計資料、写真等の資料の読み取り方の基本を指導し、何が読み取れるのか全体で確認する。
	資料の調査等を通して、身近な地域と人々の生活との関連を理解する。	
算数	身近な地域の特色や人々の活動について考え、適切に判断し、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 立式するためのキーワードや数を確認し、自分の考えを図や絵に表すようにする。それを基に立式させ、立式の根拠となる説明をさせる。 新しい単元に入る前に既習事項を確認する。 図形や数量では具体物を使用し数量感覚を身に付けさせる。
	身近な地域の特色や人々の活動について、学習の問題を主体的に解決しようとする。	
	数量や図形などについて理解し、計算したり測定や作図をしたりする。	
理科	問題について、見通しをもって筋道を立てて考え、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験の手順や用具・道具等の正しい使い方を理解させる。 観察や実験のポイントを正しくつかみ、得られた結果をどう分析するか考えさせる。
	数量や図形の学習にすすんで取り組み、生活や学習に生かそうとする。	
	自然事象の様子や性質・働きについて理解し、適切に観察・実験を行い、過程や結果を記録する。	
理科	自然事象の様子や性質・働きについて、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験のポイントを正しくつかみ、得られた結果をどう分析するか考えさせる。
	自然事象についてすすんで調べ、問題解決をしようとする。	

4年

国語	言葉の使い方や語と語の役割・関係を理解し、文章を正しく読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> 聞く側に聞く視点を明確にもたせて聞かせ、質問や感想等の交流活動を取り入れる。 文章の記述や資料の事実を基に自分の考えを書かせる。 指示語、接続語、文末、キーワードに着目させ要点をつかませながら読み取らせる。 考えや気持ちを表すために豊かで適切な言葉を使えるようにするため読書活動と辞書の活用を図る。
	話の中心を明確にして話したり、必要なことを落とさないように聞いたりする。	
	内容の中心や自分の考えを明確にし、文章の構成を考えながら書く。	
	考えとそれを支える理由や事例との関係、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に読む。	
社会	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 資料に多く触れ読み解かせ、思考力を高める。 学習したことを生かし、日常の事象を分析して考えることを促す。 社会の一員としての自信と自覚を持つ機会を設定する。
	資料の調査等を通して、都道府県の特徴と人々の生活との関連を理解する。	
算数	都道府県の特徴や人々の活動について考え、適切に判断し、表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方のポイントを指導し、正確に作図できるようにする。 前学年での既習事項に立ち戻らせ、それを基に考えさせる。 身近な場面を問題に設定し、絵や図で考えを表現させる。
	都道府県の特徴や人々の活動について、学習の問題を主体的に解決しようとする。	
	数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする。	
理科	問題について、見通しをもって筋道を立てて考えたり、目的に応じてデータを収集し的確に表現したり考察したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の目的を明確にして行う。 器具の使い方を視覚化して、使用手順を分かりやすく指導する。 実験・観察の結果から分かったことを自分の言葉でまとめ友達と考えを交流する機会をもたせる。
	数量や図形の学習に粘り強く取り組み、算数のよさに気付き、生活や学習に生かそうとする。	
	自然事象の様子や性質・働きについて理解し、適切に観察・実験を行い、過程や結果を記録する。	
理科	自然事象の様子や性質・働きについて、根拠のある予想や仮説を発想する。	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察の結果から分かったことを自分の言葉でまとめ友達と考えを交流する機会をもたせる。
	自然事象についてすすんで調べ、問題解決をしようとする。	

3, 4年共通

体育	健康や安全についての正しい知識をもち、運動の行い方や基本的な技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> めあてを明確にし、友達からのアドバイスやタブレットで録画した姿を見る活動を通して、自分の課題を見付けられるようにする。 児童の課題に合わせた運動を行ったり、練習の場を用意する。
	運動や健康についての自分の課題を見付け、解決方法を工夫する。	
	すすんで運動を楽しんだり、きまりを守り友達と協力して安全に運動をしたりする。	
外国語活動	言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を積極的に聞き取り、相手の言いたいことをつかもうとする意欲を育てる。 言いたいことを外国語を使って表現する機会を多くもたせる。
	身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	
	相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	

各学年・各教科の授業改善の重点 5年

教科	めざす児童の力	指導のポイント
国語	語句の構成や文と文との関係などを理解し、文章を正しく読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中の要旨につながるキーワードや人物の気持ちを表す言葉などに着目させる。類義語や言い換え等を試みる。 ・文章の要旨を捉え、要約したり、自分の考えを入れてまとめたりさせる。 ・いろいろなテーマや文種に応じた作文のスキルを指導し、自分の伝えたいことを必ず入れて書かせる。
	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、伝え合う力を高めて表現する。	
	言葉がもつよさを認識するとともに、すすんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。	
社会	資料の調査等を通して、日本の国土や産業と国民生活との関連を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取った社会的事実や事象を比較したり関連付けたりしながら、その意味や目的を考え、単元のねらいに結び付くような結論をまとめていく。 ・身近な既習の内容と比較したり、映像資料や具体物を提示したりして理解させる。
	日本の国土や産業の特色等について考え、適切に判断し、表現する。	
	日本の国土や産業の特色等について、学習の問題を主体的に解決しようとする。	
算数	数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から「分かっていること」、「求めること」は何かに線を引いたり、ノートに図や表に整理したりして、題意を確認させる。 ・一つの解法だけでなく、本質的に複数の解法を見い出せるような問題を提示し、粘り強く学習に取り組む態度を育てる。
	問題について、目的に合った方法で表現し、解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉えたりして考察する。	
	数量や図形の学習に粘り強く取り組み、生活や学習に生かそうとする。	
理科	自然事象の働きや規則性について理解し、適切に観察・実験を行い、過程や結果を記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題→予想(理由)→調べ方→実験→結果→考察」という流れを定着させる。 ・調べ方に、児童一人一人の考えを生かし、なぜその方法にするか意図を表現させる。
	自然事象の働きや規則性について、予想や仮説を基に条件を整えて、解決の方法を発想する。	
	自然事象についてすすんで調べ、問題解決しようとする。	

6年

国語	語句の構成や文と文との関係などを理解し、文章を正しく読み書きする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の要旨を捉え、要約したり、自分の考えを入れてまとめたりさせる。 ・語彙力や漢字の理解度を高めるために、ゲーム等の楽しい活動を通して、振り返ったり語彙を増やす機会を設ける。
	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、伝え合う力を高めて表現する。	
	言葉がもつよさを認識するとともに、すすんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする。	
社会	資料の調査等を通して、日本の政治の働きや国際社会での役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に、その時間で学習したことを、単元のねらいに照らし合わせながら自分の言葉でまとめる時間を確保する。
	日本の政治や歴史、国際協力等について考え、適切に判断し、表現する。	
	日本の政治や歴史、国際協力等について、学習の問題を主体的に解決しようとする。	
算数	数量や図形などについて理解し、計算したり作図したり表やグラフに表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを図や表を使って分かりやすく説明する力を付けるため、話し合いや解法の検討を重ねながら、多様な考えに触れる経験を通して理解を深められるようにする。
	問題について、目的に合った方法で表現し、解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉えたりして考察する。	
	数量や図形の学習に粘り強く取り組み、生活や学習に生かそうとする。	
理科	自然事象の性質・働きや規則性について理解し、適切に観察・実験を行い、過程や結果を記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察で分かったことを、比較検討したり、原因と結果を関連付けて考えたりして、文章で表現させる。
	自然事象の性質・働きや規則性について、多面的に考え筋道を立てて結論を導き出す。	
	自然事象についてすすんで調べ、問題解決しようとする。	

5, 6年共通

体育	健康や安全についての正しい知識をもち、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ、兄弟チームでお互いの動きや試合を見てよいところや改善点を伝える活動を通して、よりよい動きや作戦を考えさせる。
	運動や健康について自己やグループの課題を見付け、解決方法を工夫して友達に伝える。	
	すすんで運動を楽しんだり、約束を守り仲間と協力して運動をしたりしようとしている。	
外国語	日本語との違いを理解し、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えを気にせず「相手に自分の思いを伝えたい」という気持ちを引き出す。そのために主体的に「伝えたい」と思える場面設定を意図的に行う。さらに「伝えられた」という達成感をもたせる。
	身近な事柄について聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。	
	外国の文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら外国語でコミュニケーションを図ろうとしている。	

各学年・各教科の授業改善の重点

音楽 3～6年

教科	めざす児童の力	指導のポイント
3年 4年	曲想と音楽の構造の関わりに気付いて聴いたり、歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイントとなる音楽の要素を、題材や教材ごとに児童に提示し、何に気を付けて音楽活動をするればよいのかをはっきりさせる。 ・器楽演奏面では、運指やタンギングなどの技能だけでなく、表現の力が向上するよう、互いに聴きあう活動を増やして、強弱やバランスを自分たちで工夫するなど、曲想にふさわしい表現を考えさせる。 ・姿勢に重点を置いた指導を重ね、小さな声でも必ず歌うことを続けて、歌うために必要な基礎基本を身に付けさせる。
	音楽活動の中で、自分の思いや意図をもって表現したり、音楽のよさを見付けて聴いたりする。	
	音楽に親しみ、すすんで表現したり、鑑賞したりしようとする。	
5年 6年	曲想と音楽の構造の関わりを理解して鑑賞したり、歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付ける。	
	音楽から聴き取ったことや感じたことを基に、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさを見付けて味わって聴いたりする。	
	音楽に親しみ、すすんで表現したり、鑑賞したりしようとする。	

図画工作 3～6年

3年 4年	形や色、表し方の面白さが分かり、材料や用具を工夫して使い、つくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具の正しい使い方が定着するまで、使い方の確認をする。また、活動の場面で正しく使えているかを確認し、指導する。楽しく意欲的に取り組めるよう、図版・映像資料・制作途中の見本などの視覚的に工夫した板書・掲示をする。 ・児童の興味・関心を大切にし、実物から発想を膨らませる具体表現の題材と色彩・形・配置などで活動できる抽象表現の題材とを組み合わせ、子供が苦手と思わないような授業にする。また、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、1～2回で完成するような題材にする。
	自分らしい発想をふくらませ、表し方を考え、感じ方を広げる。	
	つくりだす喜びを味わいながら、すすんで表現したり、鑑賞したりしようとする。	
5年 6年	形や色、表し方のよさや美しさを理解し、材料や用具を工夫して使い、創造的に表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の時間を通し、自他の作品に対し肯定的な気持ちを育てられるようにする。今年度は対話形式の交流は難しいため、付箋やワークシートを用いる。また、作った作品は全て掲示し、常日頃から作品を飾る・見る・感じる活動を行う。
	自分らしい発想を基に、イメージをふくらませ、表し方や作り方を考え、感じ方を深める。	
	つくりだす喜びを味わいながら、すすんで表現したり、鑑賞したりしようとする。	

家庭

5年 6年	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それに関わる技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・用具等を安全に正しく使うことを定着するまでくり返し指導をする。ICTを活用し視覚的に工夫した板書・提示をする。
	生活をよりよくしようと生活を工夫し、実践しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を家庭で活かすために具体的な計画を立てさせる。計画したことを実際にやることで生活にどんな変化があったかを気付かせる。
	日常生活から見出した課題について考え解決する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や体験する時間を授業に取り入れる。ワークシート等を活用し予想、振り返りをする。振り返りしたことをクラスで共有する時間を設ける。

IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～

学校は、集団で様々な「生きるための力」を学んでいく所です。その中核となるのが、国語や算数といった教科の学習です。「できる喜び・分かる喜び」を通して、さらに意欲も高め、学ぶ楽しさ・生きる喜びへとつなげていきたいと考えます。

また、子どもたちの学力を伸ばすには、ご家庭の協力が大切です。基本的な生活習慣を整え学習できる体と心を育てること、温かい励ましで安心して取り組める気持ちをもたせることに加え、「学びの心・技能」を育て、「習慣」を付けるために、以下の点に留意して取り組んでいただくと、さらに力が付きます。

学びの心を育てる

その1 好奇心・関心の目を広げさせましょう。

自然の動植物、季節の移り変わり、天気や宇宙への興味、様々な仕事の場面、公共機関の乗り物、数の不思議……数限りなく世の中は不思議に満ちあふれています。子どもたちは豊かな体験を通して、たくさんの興味・関心が蓄積していきます。また、その気づきをお子さんと共に語ってください。楽しんでください。



おすすめ…①寝る前の親子読書(読み聞かせ)10分間にトライ。

②地図やことわざ、ポスターなどよく目にする場所などに貼ってみる。

③一緒にすぐ調べてみよう。地図や辞書や図鑑など身近に置いて。

その2 学べる心と体づくりが基本です。

「なんとなくやる気がしない。」「なんだかイライラして集中しない。」など、学ぶための心や体の準備ができていないと学習どころではありません。食事・睡眠といった生活習慣がやはり一番大切です。そして、うれしかったこと楽しかったことがすぐに言えたり、心配事を相談できたりできる親子関係づくりをしていきましょう。

ポイント…聞き上手になりましょう。

①反復する ②共感する ③それで?と尋ねてみる。

親の願いを伝えるときは、I(アイ)メッセージで。前向きなアドバイスを。

「私は、…と思うよ。」「…すると、…できるよ。」

学びの技能を育てる

その1 身の回りのことは、自分でできるようにしましょう。

やり方を教えたら、あとは見守り、できたら褒めましょう。

その2 お手伝いが、生きる知恵・生きる力に結び付きます。

責任をもって取り組める仕事をしてもらいましょう。

「ありがとう。」「助かるよ!」の声かけが励みになります。

買い物、食事の支度は、産地が分かったり、量を体感したり、学習のチャンスがいっぱいです。また、仕事の段取り能力は、学習全般に生きてきます。



学びの習慣を付ける

10分×学年の数の家庭学習の時間を確保しましょう。(1年…10分/2年…20分)

ポイント…①毎日、原則、宿題はあります! テレビを消して集中を。

②音読が一番の基本～聞いてくれる人がいてこそ! 丸付け・見直しをご一緒に。